

HEPATOLOGY NEWS

肝胆膵病態内科学ニュース

第7号 2010年7月 発行

巻頭言

梅 雨の季節となりました。世界はワールドカップ南アフリカ大会の最中で、日本は1勝1敗、今週のデンマーク戦で決勝トーナメントへ進出できるかどうかが決まります（6月22日現在）。テレビ観戦していると強豪国は強力なディフェンス力を持ち、縦横無尽かつスピーディーにパスを繋ぎゴールを目指して突き進んでいくのがわかります。狙いを定めた時の瞬発力と集中力に目を奪われてしまいます。分野は異なりますが、私達を取り巻く医療や医学の分野も激動の時であり、世界や国内の動きを敏感に察知し、柔軟に対応し、時には軌道修正しながら、結果を残すべく素早く行動することが求められています。また、均一性を求められる反面、トレンド/ブランドを創造して個性を前面に出すことが必要です。大阪市内唯一の大学病院かつ肝疾

患診療連携拠点病院として大いに大阪市大をアピールしたいと思っています。

(河田則文)

Contents

巻頭言	1
就任の挨拶	2
医局員紹介	4
新入医局員紹介	4
和泉市立病院着任の挨拶	5
関連病院紹介	6
ネクサールの紹介	7
超音波講習会の紹介	8
研究室紹介	9
外来担当者表	10
肝胆膵内科トピックス【2010】	12
編集後記	12



// 就任の挨拶

准教授

榎本 大

(えのもと まさる)



この度、肝胆膵病態内科学の准教授を拝命いたしました。同門の先生方にはいつも多大なご指導とご支援を賜りお世話になっております。まずは紙面を借りまして、心から厚く御礼申し上げます。

私は平成5年に本学を卒業後、第三内科に入局させて頂きました。当時は大学医局に入局するのが当然のような時代でしたし、第三内科は非常に人気の高い医局でしたので、同期入局者は10数人おりました。今のようなローテーションの制度はなく、外科系や麻酔科を回ることはありませんでしたが、消化器内科医として消化管疾患も肝胆膵疾患もバランスよく研修させて頂いたと思います。1年目から医局員としてある程度一人前扱い頂き、その分深夜まで残って仕事していることも多かったですが、同期とは『同じ釜の飯を食った』的な感覚を今でも共有出来る気がします。2年目は相生病院で、消化器に限らず広く一般内科の経験をさせて頂き、この時に北田恵一先生に教えて頂いたことは今でも自分の臨床の基本になっています。

平成7年には門奈丈之先生が主催されていた公衆衛生学教室の大学院に進みました。大学院では西口修平先生の直接のご指導の下、当時トピックスであったGBウイルスに関する研究で学位を取得することが出来ました。西口先生からは現在に至るまで多くのことを学びましたが、海外の学会にも幾度となくご一緒させて頂き、仕事の成果を発信することの喜びを教わったことが、今でも自分の仕事の原動力になっています。実験は第2生化学教室でさせて頂いていましたので、特に同期の田中基晴先生、藤本俊輔先生たちと

は助け合い(助けてもらう方が多かったですが)、切磋琢磨出来たことが懐かしく思い出されます。

大学院卒業後は、より臨床的に重要な課題としてC型肝炎、B型肝炎に取り組みたいと考え、臨床研究を継続することにしました。平成16年には、それを更に基礎的に掘り下げたいという思いから、テキサス大学のStanley Lemon先生の下に留学させて頂きました。限られた留学期間内に目に見える成果をあげることは出来ませんでした。一流の研究者たちの仕事の流儀を間近に見られたことは貴重な経験でした。また基礎研究者に対する臨床医の限界を痛感する一方、臨床医としてのアドバンテッジや自分の立ち位置について深く意識するようになったことは、その後の仕事に役立っていると思います。

帰国後は荒川哲男先生に教員ポストを与えて頂き、お陰様で診療、研究、教育と多忙ながら充実した日常を送らせて頂いています。平成19年には河田則文先生が教授に就任され肝胆膵内科は新たなスタートを切ることとなりましたが、その創成に立ち会えたことを誇りに思っています。河田先生は皆様ご存知の通り、これまで肝線維化に関する基礎研究において世界的な成果をあげてられました。研究のバックグラウンドは私と異なりますが、異なるものを受け入れる(または楽しむ)包容力をお持ちで、そのような先生にご指導頂けることは、私にとって新しい発想を与えてくれています。また常に明るく前向きでアクティブな姿勢も、常々見習いたいと思っています。

この4月には2年間の社会医療センターの勤務を経て大学に戻って参りました。田守昭博先生からご指導頂き、医局長としての業務も徐々に引き継がせて頂いています。今後も肝胆膵内科の発展のため微力ではありますが努力する所存です。どうか皆様の一層のご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

講師

小林 佐和子
(こばやし さわこ)



今年4月から、肝胆膵病態内科講師をつとめさせていただきましたこととなりました。

大学院卒業後、大学病院の病棟・

外来を受け持ちながら、主に肝疾患の臨床に携わってきました。特に、肝癌の経皮的および腹腔鏡の局所治療や肝疾患の診断、腹部超音波検査に力を入れて取り組んでいます。超音波検査は、ここ数年どんどん新しい手法が開発され、その診断能は飛躍的に向上し、治療支援としてもこれまで以上に大きな役割をはたすようになってきました。肝疾患の診療において、内科医として存分に力を発揮できる分野であり、今後もさらに研鑽をつんでいきたいと思っています。

昨年からは、いろいろな方の協力を得ながら、肝臓病教室や超音波講習会といった、患者さんもしくは学生・研修医の教育にも取り組んでいます。今までとはまったく違った視点で取り組まないといけないことも多く、新たな発見も多いです。相手の反応がダイレクトに伝わってくるという難しさもありますが、通常の診療とは違った面白みも感じています。

これまででは周りの先生方や環境にも恵まれ、自分がおもしろいと思うことを、ある程度好きなようにさせてもらってきたように思います。これからは、そのおもしろさを後輩たちにも伝えられるよう、さらに、教室の発展にも貢献できるように努めていきたいと思っています。

病院講師

萩原 淳司
(はぎはら あつし)



平成22年4月より国立がんセンター中央病院肝胆膵内科を離れ4年ぶりに大学病院に復帰いたしました。日本でまだ数

少ない臨床腫瘍学会専門医（癌の専門医）として、大学病院でも肝胆膵領域の癌治療を中心に携わっていきたいと思います。肝癌に対しては、局所療法（ラジオ波焼灼術、エタノール注入療法）、経カテーテル的肝動脈塞栓術、全身化学療法（ソラフェニブなどによる抗がん剤治療）などを、また、胆膵癌に対しては、全身化学療法（抗がん剤治療）、放射線化学療法などを行っております。肝胆膵領域の癌治療においては外科及び放射線科との協力及び連携体制が重要で定期的に症例の検討を行っております。

これまで、肝胆膵癌は全身化学療法が効きにくいとされてきましたが、肝癌に対してソラフェニブなどの分子標的剤が導入されたことや、胆道癌に対してシスプラチンとゲムシタビンの併用療法が新たに保険承認の見通しであることなど有望な全身化学療法が登場してきました。軽い副作用で安心して新規の抗がん剤治療を受けていただくため、癌化学療法認定看護師、皮膚排泄ケア認定看護師、化学療法センターとも協力しながら治療を進めてまいります。

また、大学病院という性格から、臨床試験の考案、学生、研修医、研究医、大学院生の指導にも力を入れたいと思っています。

// 医局員紹介

松田 香奈子
(まつだ かなこ)



肝 胆膵内科に入局して三年目、大学卒業後五年目となりました。一昨年度は大学病院で、昨年度は育和会記念病院に勤務し、今年4月から再び大学病院で働いています。

育 和会記念病院では本当に様々な疾患に出会い多くの臨床経験を積むことができました。何度も困難な事態にも遭遇しましたが、周りの先生方に助けて頂き続けて一年間乗り切ることができました。

大 学では前期研究医なので病棟、検査業務に勤んでいます。まだまだ未熟な点ばかりで「これでいいのだろうか」という言葉と戦い続けている毎日ですが、周りの先生方は気軽に質問に答えて下り、恵まれた環境で仕事をさせて頂けることに感謝の気持ちでいっぱいです。

今 後は早く一人前になって肝炎、肝癌の治療ができるようになること、また自身の得意分野を持つことを目標に日々精進していききたいと思います。これからもよろしくご指導お願い申し上げます。

// 新入医局員紹介

大谷 香織
(おおたに かおり)



本 年度より前期研究医として入局させていただきました、大谷香織です。2008年愛知医科大学を卒業し、研修医1年目は大阪市立大学医学部附属病院、

2年目は東住吉森本病院で研修しました。当初より消化器系に興味を持っていたため、入局するにあたり、第3内科での選択に迷いましたが、肝疾患を学びたい、腹部エコーをしっかりと身に付けたいと思うようになったこと、それに加え、河田教授を始めとした肝胆膵内科の先生方の雰囲気にかかれたというのが最終的な決め手のひとつとなっています。まずは消化器内科医として一般的な臨床能力を日々積み重ねていくことを目標とし、後々に臨床の中で自分に合った分野を見つけていきたいと考えます。今後とも先生方にはご迷惑をお掛けすることと思いますが、よろしくお願い致します。

新入医局員紹介

杉本 恭子
(すぎもと きょうこ)



本年度より肝胆膵内科に入局させて頂いた杉本恭子と申します。研修医1年目は大阪市立大学医学部附属病院で、2年目は大阪鉄道病院で研修させて頂き、3年目は糖尿病代謝内分泌内科に入局し、血糖コントロール、透析管理等を勉強させて頂いていました。しかし、肝臓に対する興味が捨てきれずご縁あって4年目の今年より肝胆膵内

科に入局させて頂きました。

現在は和泉市立病院消化器内科でお世話になっており、坂口先生を始め北田先生、大西先生に手とり足とりご指導頂き、非常に恵まれた環境で勉強させて頂いております。

市中病院の第一線で働くのは初めてで、消化器のみならず内科疾患全般について毎日いろいろな経験を積ませて頂いております。

肝臓、消化器疾患は勿論のこと、内科全般を幅広く診ることが出来る医師になりたいと考えています。

まだ何も分からない私ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

和泉市立病院着任の挨拶

和泉市立病院消化器内科
病院長補佐兼肝臓病センター長
坂口浩樹

4月1日付けで和泉市立病院消化器内科に着任しました。和泉市立病院は消化器内科が引き揚げてから常勤医が不在でしたが、昨年北田拓也先生が常勤として勤務しており、また本年1月から杉本恭子先生が勤務しておりますので、私を含めて大阪市立大学肝胆膵内科出身の医師は3人になりました。また、岡山大学第1内科に所属しておられた大西 享先生が昨年消化器内科常勤として勤務されており、合わせると4人になります。4人とも肝臓専門ですので、消化器内科としては専門に偏りがあるところですが、内視鏡は大阪市立大学消化器内科の医師が5人非常勤で来てくれていますので、何とかなっております。

この話の発端は、和泉市立病院を大阪府南部の肝疾患拠点としようという河田則文教授の構想からでした。大阪府南部から阪大が引き揚げたことにより、南部に肝疾患専門医が

少なくなったことがそもそもの始まりです。このようなわけで、着任早々患者さんがあふれているかと危惧していたのですが、蓋を開けてみるとそれほど肝臓の患者さんは居られませんでした。外来も急性胃腸炎やヒステリーなどを診ているだけで、どうなるか心配していましたが、徐々に肝臓の紹介患者も増えてきつつありほっと一息ついていきます。大阪府南部の肝疾患拠点病院となるべく、努力していきたいと思っていますので今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。肝疾患の患者さんをどんどん紹介していただければ幸いです。



関連病院紹介

大野記念病院

当院は大阪市西区南堀江の周辺に若者向けのショッブが立ち並ぶ地域にあります。前身である大野病院は大正13年に創立されており80年以上の歴史のある病院です。現在診療科は



消化器内科のほか内科（腎臓内科・循環器内科・リウマチ・膠原病内科）、外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科があります。

当院の特徴は105床を有する透析施設をもつことと、検診施設（大野クリニック・MOクリニック）を併設していることです。透析治療の進歩に伴い長期透析患者さんが増え、思わぬ病態に出くわすこともあります。腎機能の低下した方に造影剤を使用したりする際には柔軟に対応していただき助かっております。また検診施設からの紹介もあり、内視鏡件数は年間3500例を超えております。

総病床数は250床で消化器内科は36床前後を割り当てられていますが、DPC採用以来入院期間が短縮し回転がよく総数の少ない状態が続いています。



消化器内科は消化器器官制御内科学より宇野裕典部長・藤井恭子先生・賀陽聡一郎先生・朴成華先生、肝胆膵病態内科学より寺垣聡先生、川村の総勢6名です。消化管の分野では上下部消化管内視鏡から止血術・EIS・EVL・ポリペク・ESD・ERCP・胃瘻まで幅広く行われています。肝臓に関してもIFN治療はもちろん腹部エコー・TAE・PEIT・RFAまで施行しております。各自専門性を持ちながらもそれに拘泥せず協力しながら消化器内科全般の疾患を担当しています。

当院に赴任して15年になります。患者さんも長期に通院されている方が多くなり、特に肝疾患の方はさまざまな原因で入退院を繰り返されますが、コメディカル、特に病棟スタッフが暖かく、優しく、親しみをもって接してくれるおかげで、度重なる入院の苦痛にも若干の楽しみをもって療養していただけているようです。建設から22年目の病院の建物自体は古くなり、他の新しい病院に比べると病室などは狭く、暗いと感じられますがそれでも「入院するならこの病院」といってくださる方が多いのはコメディカルの方のおかげであると痛感しております。

今後も医師はもちろんコメディカルの方とも協力しながら、何よりも患者さんにとってよい病院を目指して努力していきたいと考えております。今後ともご指導下さいますようよろしくお願い申し上げます。

（大野記念病院 川村千佳）

■ ネクサバールの紹介

～ソラフェニブ (商品名ネクサバル®) : 新しい肝癌治療薬～

特徴：

肝細胞癌 (HCC) 治療に新たな治療薬が登場してきた。マルチキナーゼ阻害作用のある経口薬であるソラフェニブである。

HCC 治療では、肝切除・ラジオ波焼灼術・肝動脈塞栓術など種々の有効な治療がある。しかしながら、これらの治療が適応とならない進行 HCC の治療についての有効な治療法は確立されていない。

近年、癌細胞の増殖・進行に関わるメカニズムが明らかにされつつあり、特定の分子を標的にして、癌細胞の増殖・進行を抑制する治療薬の開発が進められてきた。いわゆる分子標的薬といわれる治療薬である。ソラフェニブは、癌細胞の増殖に関与する Raf キナーゼや MAP キナーゼ、血管新生に関与するチロシンキナーゼなどに対する阻害剤である。従来抗癌剤と違い、特定の部位を標的にして開発された分子標的薬の一つである。

治療効果：

進行 HCC に対して、欧州を中心とした第Ⅲ相試験 (SHARP trial) でプラセボ群に比較し、ソラフェニブ群が 44% 生存期間の延長を認めた。アジアでの第Ⅲ相試験 (Aisan Pacific Study) でも同様にソラフェニブ群で有意に生存期間の延長を認めた。これらの大規模試験の結果、ソラフェニブは進行 HCC の標準治療として世界的に認識された。

投与方法と薬価：

通常、ソラフェニブとして、一回 400mg を一日 2 回内服する。患者の状態により適宜減量する。ソラフェニブの薬価は 200mg 錠 1 錠あたり、5426 円。一日 800mg 投与した場合には 2 万 1704 円となる。

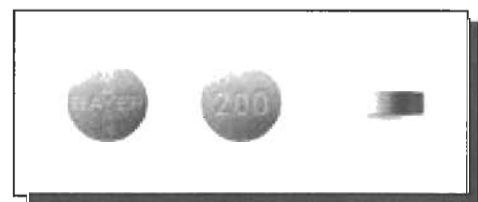
副作用：

これまでの臨床試験で皮疹、手足症候群、下痢、高血圧など様々な副作用が認められている。これら副作用はすべての患者に出現するとは限らないが、早期に対応することが必要である。

まとめ：

分子標的薬であるソラフェニブが有意な延命効果を示したことにより、HCC 治療が大きく変わりつつある。現時点では市販されたとはいえ、市販後全例登録が必要であり、未だ限られた施設でしか使用できない状況である。また、日本人に多い、C 型肝硬変を背景に持つ高齢者の進行 HCC への評価は定まっていないと思われる。

今後新たな分子標的薬の開発が世界規模で進んでおり、それらの成果が期待される。



超音波講習会の紹介

腹 部エコーおよび当科を身近に感じてもらうため、平成21年9月から、卒後医学教育学/総合診療センターおよびスキルスシミュレーションセンターと協力し、研修医および学生を対象とした腹部超音波手技講習会を始めました。初回についてはファントムを使って腹部エコーを体験し、基本を学んでもらっています。今年度からは卒後臨床研修センター主催の「研修セミナー」と同等のものとして受講証も発行できるようになりましたので、受講希望者も増加傾向です。

ほ ぼマンツーマンで、個々の技量・希望に応じて、楽しく・優しく指導していますので、興味のある研修医があられましたら、是非受講をお勧めください。

腹部超音波検査手技講習会日時：
月2回程度 18時頃から約1時間半
(事前に掲示します)

場 所：あべのメディックス8階メディカルフォーラム内
スキルスシミュレーションセンター(SSC)

対 象：医学部学生、研修医

実習協力：肝胆膵病態内科学

実習企画：スキルスシミュレーションセンター

Tel:06-6645-3797



研究室紹介

南 館研究室のメンバーは医師・ポスドク・大学院生・研修生・学外研究員から成り、河田教授、客員教授である吉里教授、またその他の先生方のご指導の下、培養細胞や実験動物等を用いて基礎研究を行っています。肝炎から線維化、肝硬変を経て最終的に肝癌へと移行するメカニズムにはまだ不明な部分も多くあり、それらのメカニズムを解明することで少しでも治療法の前進につながればと期待し、研究を行っています。2009年度には論文発表4報、およびさまざまな学会での発表も行い、情報発信もしてきました。2010年もこの勢いを緩めることなく、日々研究に励んでいます。直近の学会とし

ては、8月末から開催される 15th International Symposium on Cells of the Hepatic Sinusoid で3名が発表する予定です。現在の主な研究テーマとしては、「サイトグロビンの肝疾患における機能解析」、「肝線維化におけるインターフェロン、マイクロRNAの機能解析」、「ウサギ非アルコール性脂肪性肝炎モデルの病態解析」、「iPS細胞の肝細胞への分化誘導」等があります。基礎研究の範囲のみに留まらず、臨床研究とのコラボレーションや、研究結果の臨床へのフィードバック等もできればと考えていますので、ご指導の程よろしくお願いします。



外来担当者表

大阪市立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 外来表

大阪市立大学医学部附属病院 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1-5-7
 医局:06-6645-3811 外来:06-6645-2316 地域医療連絡室:06-6645-2877
 ※地域医療連絡室は午前9時～午後4時(土・日・祝 12/29～1/3を除く)

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
1診	河田 則文	田守 昭博	森川 浩安	河田 則文	田守 昭博
2診	榎本 大	岩井 秀司	岩井 秀司	榎本 大	藤井 英樹
3診	藤井 英樹	小林 佐和子	小林 佐和子	萩原 淳司	萩原 淳司
4診				遠山 まどか	

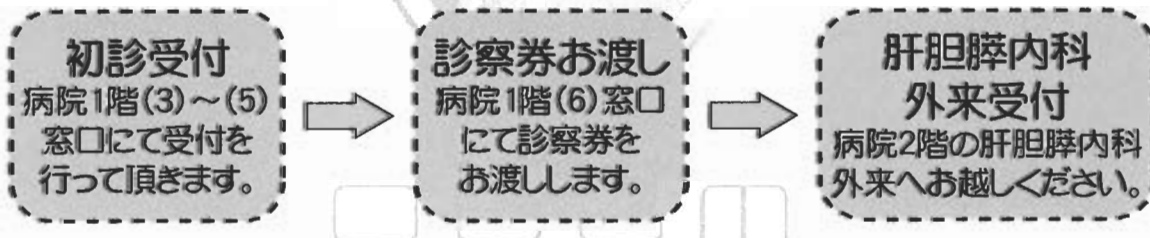
※初診の方は、診療情報提供書があれば、毎日診察させていただきます。

医師の指名がある場合は、その名前をお書きください。

初診受付:9:00-10:30

※肝胆膵内科(消化器内科)という記載が無ければ、総合診療科を受診いただく場合があります。

受診の流れ



スタッフ紹介

大阪市立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 スタッフ紹介

※①卒年、②専門分野、③ひとこと

<p>河田 則文</p> <p>①S61年 ②肝胆膵全般 ③明るく、わかりやすい外来を目指しています。</p> 	<p>田守 昭博</p> <p>①S61年 ②肝胆膵全般 ③病診連携の一層の充実に努力しています。</p> 	<p>榎本 大</p> <p>①H5年 ②ウイルス性肝炎 ③患者さんの立場に立った医療を心掛けています。</p> 
<p>森川 浩安</p> <p>①H5年 ②肝胆膵全般 ③当科では、慢性疾患が多く、病診連携を重視しています。</p> 	<p>岩井 秀司</p> <p>①H7年 ②肝臓がん ③局所治療が可能な患者さんがおられましたらご紹介ください。</p> 	<p>小林 佐和子</p> <p>①H9年 ②肝胆膵全般、腹部エコー ③患者さんと一緒に相談しながら検査・治療をすすめていきます。</p> 
<p>藤井 英樹</p> <p>①H10年 ②脂肪肝 ③ダイエットに関する相談も随時受け付けています。</p> 	<p>遠山 まどか</p> <p>①H11年 ②肝胆膵全般 ③親しみやすく、相談しやすい外来を心掛けています。</p> 	<p>萩原 淳司</p> <p>①H11年 ②癌 ③日本ではまだ数少ない癌の専門医です。</p> 

ご挨拶

このたび、病診連携における情報提供の一環として、当肝胆膵内科のスタッフ紹介及び外来診察表のご案内をさせていただきます。当科のホームページもご参照頂ければ幸いです。先生方のお手元にこちらのご案内を置いて頂き、先生方の診療に役立てて頂ければと思います。

また、引き続き先生方と情報を共有化させて頂き、医療連携を強固にしていきたいと考えております。

今後とも医局運営等にご助言、ご教示頂ければと存じます。

肝胆膵内科 部長
河田 則文



大阪市立大学医学部附属病院
肝胆膵病態内科学
〒545-8586
大阪市阿倍野区旭町1-5-7
医局:06-6645-3811
外来:06-6645-2316

// 肝胆膵内科トピックス【2010】

- July29 : Challenge 研究会が開催されます。NEW IFN療法時の“うつ”対処法に関する特別講演があります。
- July24 : 第2回大阪肝疾患ネットワークセミナーが開催されます。
- July22 : 基礎と臨床の接点研究会が開催されます。特別講演は岐阜大学 森脇教授。
- July7-8 : 肝臓研究会が開催されます。
- June27 : 肝臓病市民公開講座が開催されます。
- June25 : 肝臓病教室が開催されます。
- June24 : 肝臓化学療法セミナーが開催されます。
- June20 : 小川氏らの論文が Am J Pathol の Commentary に採用されました。
- May27 : 第46回日本肝臓学会が開催されました。
- May15 : IFN 地域連携パス説明会が開催されました。
- May13 : 第1回大阪市立大学肝臓病研究会が開催されました。
- May 3 : 准教授榎本大氏らのエンテカビルによるB型肝炎治療と線維化に関する論文が Hep Res に accept されました。
- April29 : 河田教授が毎日新聞から取材を受けました。
- April22 : 第96回日本消化器病学会総会が開催されました。
- April 8 : JSPS 科学研究費補助金、基盤B(河田、継続)、基盤C(榎本、継続)、若手B(藤井、継続; 小川、新規)、挑戦的萌芽(河田、新規)が採択されました。
- April 6 : 第6回大阪肝臓病ワークショップが開催されました。
- Mar 27 : 第1回大阪肝疾患ネットワークセミナーを開催しました(参加者50名)。
- Mar 26 : 肝臓病教室が開催されました。
- Mar 26 : 厚生労働科研肝炎等克服緊急対策事業の3年目への研究継続が採択されました。
- Feb 19 : 講師榎本大氏の研究課題が肝炎ウイルス財団平成21年度肝炎に関する研究助成事業に採択されました。

// 編集後記

Hepatology News 第7号をお届けいたします。この夏、肝胆膵内科ホームページのリニューアルを予定しております。HPからたくさんの方の情報を発信していきたいと思っておりますので、お時間がございましたら、是非一度ご参照ください。
<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/syoukaki/hepatology/index.html>

(教授秘書 高野由利子)

HEPATOLOGY NEWS

肝胆膵病態内科学ニュース

第7号 2010年7月 発行



発行者 / 大阪市立大学大学院医学研究科
 肝胆膵病態内科学

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

TEL : 06-6645-3811 FAX : 06-6645-3813

編集委員 / 森川浩安